

### 13 根管低位歯髓切断法の治療効果について

○瀬尾令士\*，久保山博子，馬場篤子，本川 渉

瀬尾歯科医院\*・熊本県  
福歯大・小児歯

日常臨床において、我々は幼若永久歯の歯髓処置法として、臨床的症状やX線的検査（病変の程度、根の発育状況）から生活歯髓切断か、或いは抜髓（感染根管処置）が選択的に施術されている。しかし、いずれの場合も、幼若永久歯の有する複雑な組織解剖学的特徴や術後の組織変化などから、多くの問題点を有していることは周知の通りである。そこで、演者は第8回九州地方会シンポジウムにおいて、従来の生活歯髓切断法（根管口下部）の長所を活用し、しかも欠点を補い、且つ、完全抜髓法や感染根管処置法の一步手前の処置法として、部分的高位抜髓法を挙げ、その術式、および治療効果の有効性について報告した。今回、演者らは歯髓処置を余儀なくされた8歳から16歳までの男女20名の根未完成歯、及び根尖端部に異常がみとめられた幼若永久歯の20歯牙（Nolla 8-10）を対象に根管低位歯髓切断法を施術した結果、その後の臨床的、且つX線学的経過観察において、興味ある知見を得たので、その概要を報告する。